2009年度

科目名	ワークショップ論				
担当教員	村尾　敏彦、中村　英一朗				
配当	人社1(2312)			コード	44550
開期	前期	講時	木曜日4限	単位数	2
授業テーマ	実際に自分の身体と心を使って、楽しくワークショップの手法を学びながら、自分と社会についての新たな向き合い方を探る				
目的と概要	人権をはじめ人生や世の中の様々な問題について必ず『正解』があるわけではないでしょう。また、教え込まれただけの正しい答えは、本当の意味で自分のものになっていないのかもしれません。そのような中でこのワークショップ論では①体験する(参加者は相互に学び合う)、②振り返る(自分の気持ちを言語化し、相手の言葉を傾聴する)、③一般化する(体験を分析し概念化する)、④応用する(それを経験知・経験則まで高め、次への行動を考える)を通して、人間の成長につなげます。				
成績評価法	授業毎に『振り返りシート』に記入してもらう。学期全体の自分の資料をもとに自己評価のレポートを提出してもらい、教員はそれを基に評価します。				
テキスト	特にテキストは使用しない				
参考書	必要があれば、その都度授業中に指示する				
履修に当たっての注意・助言	教室で椅子に座って講義に耳を傾ける形式の授業ではありません。心身を活動して体験する形式の授業なので、人数が多すぎると授業として成立しません。そのため人数制限をします。授業履修できるのは、60名までです。2クラスに分かれて履修します。				

講義計画

1. ワークショップとは？　(7つの側面・話し合うルール作り・聞くトレーニング)
2. ワークショップの基本(ブレーンストーミング・CARRトレーニング他)
3. ダイヤモンドランキング(仕事に求めるもの)
4. トラストゲーム
5. レスポンスゲーム(ひとからひとへ波のように伝わって…)
6. 差別・偏見について考える①(『ちがいのちがい』より　～違いを豊かさに～)
7. 差別・偏見について考える②(『熱気球』より　～結婚の条件～)
8. 差別・偏見について考える③(多数派少数派・青い目茶色い目[DVD])
9. イメージを共有して(大縄跳び)
10. Back to Back(絵を描くワーク)
11. 粘土のワーク(ふたりで作ったら…)
12. 貿易ゲーム①(南北問題を体験を通して考える)
13. 貿易ゲーム②(フォトランゲージ)
14. オークション(卒業までにつけたい力)
15. 授業のまとめ